

全国コミュニティ・スクール 研究大会 in 下関

8月5日に開催された、全国コミュニティ・スクール研究大会が山口県下関で行われ、鈴木 広教育次長補佐と上浦幌中学校 白井が参加してきました。

大きく三つの内容に別れ、午前中に基調講演。午後から、実践発表とパネルディスカッションが行われました。

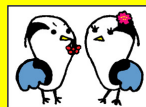
～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫CS便り

平成26年9月19日 (NO.26)

浦幌町教育委員会

浦幌町教育研究所



基調講演編 PART 1

講師： 矢崎 節夫 さん（金子みすゞ記念館 館長）

演題： 「みすゞさんのまなざし ～地域が育てるやさしい心～」

とっても、素敵な講演でした。人と人のかかわり・つながりについて、示唆していただいた内容でした。そこから、学校と地域との関係について、考えさせられるものへと広がっていきます。それでは、「こだまでしょうか」の詩とともに講演内容の一部をご紹介します…。

『こだまでしょうか』

「遊ぼう」というと 「遊ぼう」という。
「馬鹿」というと 「馬鹿」という
「もう遊ばない」というと 「もう遊ばない」という。
そして、あとで さみしくなって、
「ごめんね」というと 「ごめんね」という。
こだまでしょうか、 いいえ、誰でも。

【講演から 素敵な言葉をまとめました】

- ◎「あなたとわたし」の関係に気づかせてくれる詩。「わたしとあなた」ではない。
- ◎周りに気づいて「わたし」になる。「わたし」をつくる。
- ◎子どもの誕生日は親になった誕生日でもある。「子どもが親にしてくれた」
- ◎怪我をして「痛くない。泣くな」ではない。「いたいね。」「つらいね。」＝『こだま』が大切
- ◎被災者を「代受苦者」と表現。「そちらの私」・「こちらの私」
- ◎「やさしい」は、「憂いている人に寄り添う」と書いて、「優しい」となる。
- ◎だれかと許しあって「人」になる。

CSは、「学校と地域」であり、「地域と学校」でもある。相手を敬い・感謝する気持ち。互いに寄り添い、子どもをより良くはぐくむ事が大切であることに改めて気づかされました。